

一中の桜並木

令和7年6月17日

「教育目標」



考える人
思いやりのある人
助け合う人
成しとげる人



—中HP

連雀学園三鷹市立第一中学校 校長 宮城 洋之

食べ物は体を作る、情報は心をつくる

校長 宮城 洋之

梅雨入りから1週間を過ぎましたが、まるで梅雨明けのような猛暑に見舞われています。この時期は暑さや湿気で食べ物が傷みやすいので調理方法や保存方法には十分に気を付けたいもの……と思うのですが、実はもっとも食中毒が発生するのは気候的に涼しくなり始める10月で、ウイルス性の食中毒のピークは11月から3月までの冬なのだそうです。なんとなく「梅雨時は食中毒に注意」というイメージがありますが、梅雨の時期だけ気を付ければよいというものではないのですね。



正門近くに咲く紫陽花

先日、テレビ番組で情報系分野の研究者が「食べ物は体を作る、情報は心をつくる」と語っていたのが印象に残りました。言うまでもなく、食事は体の健康を保つ一つ条件になります。偏った食事を続けることが健康に良くないことは納得できることですし、ましてや傷んだ食材を口にすることは食中毒のように体に有害であることは言うまでもありません。しかし、心の健康を作る「情報」の摂取はどうでしょうか。偏った情報だけに接していたり、さらには誤った情報を取り込むことが「心の食中毒」を引き起こしかねないことには意外と危機感が薄いのではないのでしょうか。

「エコーチェンバー」と呼ばれる現象があります。社会学やメディア学などの分野で取り上げられるようになった用語で、SNSなどで自分と似た意見をもつ人ばかりをフォローすると、自分が発した意見に対して同じような意見ばかりが返ってくるようになる現象のことです。まるで閉ざされた部屋の中で自分の発した声のエコー（こだま）のように反響・増幅されるので「エコーチェンバー（反響室）」と呼ばれます。その「部屋」が小さければ小さいほどその他の意見が入る余地は小さくなり、反響して聞こえる意見だけが世界を代表する意見ででもあるかのような錯覚を生み出す恐れがあります。その結果、自分の意見=世界の意見=正義という思い込みから、意見の異なる他者に対して攻撃的になってしまうこともあるそうです。まさに「偏った情報」により「心の健康」を損なっている状態になると言ってもよいのではないのでしょうか。

ネット上のサイトのURLに含まれる文字列「www」は「World Wide Web」の略で「インターネット」を意味します。普及し始めた1990年代、インターネットはまさに「ワールドワイド」に世界中の人々が国境を越えてつながる可能性をもつ夢のネットワークでした。しかし30年以上過ぎた現在では「エコチェンバー」のようにとっても狭くて閉ざされた空間を生み出すことにもなっています。

こうしたインターネットの可能性と危険性を理解した上で、心の健康のために「情報のバランス」を考えることのできる賢さを一中学生には身に付けてほしいと思います。それは日常生活や学校生活でも大切な「考える力」になります。

- 情報源は信頼できる？
- 「いいね」の多い書き込みだから正しいと言える？
- 逆の立場、別の立場からの意見はないのだろうか？
- 意見は違っても、対立ではなく共存できるのでは？



通知表「所見」の簡略化について

三鷹市立中学校では7月と12月に全ての学年で三者面談を実施しています。1学期、2学期を終えた時点で学習や生活の状況を振り返り、今後の目標等について対面形式で話し合いを行うことは、家庭と学校が手を携えて生徒の成長を見守り、支援するために重要なことと考えています。

三者面談とあわせて、従来は通知表にも生徒の学習・生活状況に対する簡潔な所見を記載してきましたが、三者面談の充実を図り、より具体的にお伝えすることとし、昨年度から1,2学期とも通知表への記載は簡略化しています。

なお、今年度は工事の都合で1,2年生の面談が希望制となっているため、面談を実施しない場合に限り、通常どおりの所見を記載することとしました。ご了解くださいますようお願いいたします。